

生命倫理の諸問題 (3)

Overview

- ・ 生命倫理と宗教
- ・ 人工授精・体外受精
- ・ 人工妊娠中絶
- ・ 出生前診断
- ・ 遺伝子検査・操作
- ・ 終末期医療
- ・ 安楽死・尊厳死
- ・ 脳死・臓器移植
- ・ ES細胞・iPS細胞研究
- ・ まとめ——課題と展望

遺伝子検査・操作



Angelina
promotes
Breast Cancer Awareness

アンジェリーナ・ジョリー My Medical Choice

母親は56歳で乳がんで亡くなっている。アンジェリーナ・ジョリーは遺伝子検査を受け陽性 (BRCA1と呼ばれる遺伝子に変異、乳がんになるリスクは87%)。乳腺を予防のために除去し、乳房の形を保つための再建手術を受けたことを公表。

(NY Times, May 14, 2013)



ONLINE CONTRIBUTOR
My Medical Choice
By ANGELINA JOLIE
Published May 14, 2013 | 1712 Comments

LOS ANGELES

MY MOTHER fought cancer for almost a decade and died at 56. She held me long enough to meet the first of her grandchildren and to hold them in her arms. But my other children will never have the chance to know her and experience how loving and gracious she was.

We often speak of "Mommy's mommy," and I find myself trying to explain the illness that took her away from us. They have asked if the same could happen to me. I have always told them not to worry, but the truth is I carry a "family" gene, BRCA1, which sharply increases my risk of developing breast cancer and ovarian cancer.

Gattaca (1997)





E.T. (1982)

遺伝子の解明がもたらすこと

- ・ 人間は生まれたときから平等ではないことを明確に語られる。
- ・ 「内なる自然」としての人間の身体がバイオテクノロジーのフロンティアとされる。
- ・ 病気の概念が変容する。予防医学の発展。

倫理的・宗教的課題

- ・ 遺伝子操作によって人間性そのものを操作することが可能となる。
- ・ 人間の「かけがえのなさ」と現代社会の特質としての「代替可能性」
- ・ 遺伝子決定論の拡大
- ・ 天才遺伝子、暴力遺伝子、不倫遺伝子？
- ・ 人間の「本質」とは何か？
- ・ キリスト教の場合、それを魂（永遠の命）と考えてきた。

終末期医療

胃ろう造設を事例として

人工的水分・栄養補給法 (AHN: artificial hydration & nutrition)

- ・ 静脈栄養法
- ・ 経腸（経管）栄養法
- ・ 経鼻経管栄養法
- ・ 胃ろう栄養法



PEGの拡大

- ・ 経皮内視鏡的胃ろう造設術（PEG）
- ・ 対象者は、高齢の脳血管障害者や認知症患者
- ・ 1990年代後半から広まり、現在、胃ろう栄養法を受けている患者は56万人に上ると言われている。

変化の兆し

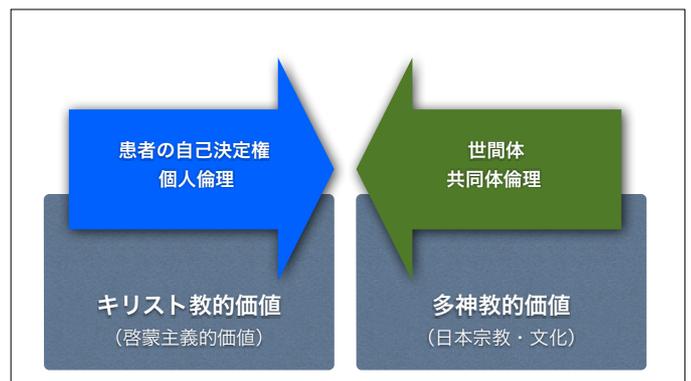
- ・厚生労働省 研究班
- ・人工栄養法、導入しない選択肢を含む指針案（2011年）
- ・日本老年医学会
- ・「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン——人工的水分・栄養補給の導入を中心として」（2012年）
- ・尊厳死法制化を考える議員連盟（2004年）
- ・尊厳死の法制化（まだ国会で審議されていない）

倫理的課題

- ・インフォームド・コンセントは？
- ・日本では、AHNを施行しない選択肢は通常、示されない。欧米では、AHNの差し控えは**緩和ケア**の一部とされる。
- ・医療経済の視点から見た資源の適正配分
- ・**優生学**的圧力に対する倫理的保護の必要性
- ・延命は誰のため？
- ・自己決定権（個人倫理）と共同体倫理（家族の論理、世間体）

日本的価値の文化的・宗教的背景

- ・神道的背景
- ・「凡て迦微(カミ)とは、①古御典等(イニシエノフミドモ)に見えたる天地の諸(モロモロ)の神たちを始めて、②其を祀れる社に坐御霊(ミタマ)をも申し、③又人はさらにも云ず、④鳥獸木草のたぐひ海山など、其余何にまれ、尋常(ヨノツネ)ならずぐれたる徳(コト)のありて、可畏(カシコ)き物を迦微とは云なり、」（本居宣長『古事記伝』三ノ巻）
- ・①神典の神々、②神社の神々、③人間の神々、④自然の神々
- ・仏教的背景：「草木国土悉皆成仏」（天台本覚思想）



安楽死・尊厳死

「11月1日に死にます」尊厳死宣言の動画、米で波紋

【朝日新聞、2014.10.31】余命半年を告げられた末期がんの米国人女性が、自宅で自ら命を絶つと伝えたビデオが、尊厳死の是非を巡り、波紋を呼んでいる。米CNNなどによると、夫の誕生日を祝った後、11月1日に薬を飲んで死ぬという。

ブリタニー・メイナードさん（29）は結婚式を挙げてまもなく、脳に悪性腫瘍（しゅよう）が見つかった。治療法もなく、激しい頭痛に悩まされ、これ以上苦しむ前に自ら死ぬことを決め、カリフォルニア州から尊厳死を認めているオレゴン州に夫と引っ越した。（中略）

思い残すことがないようリストを作り、数日前、最後の望みだったグランドキャニオンも訪れた。メイナードさんの選択を支持する人がいる一方、最後まで病気を闘うべきだと反対する医療関係者など、メディア上で大論争を呼び起こしている。

米国では五つの州で尊厳死が認められているが、メイナードさんはブログに「全ての米国の末期患者が、自分の最期を選べるようになるのが夢」と書いた。2013年のギャロップ社の調査では、米国人の70%が、痛みを伴わない方法であれば、末期患者の尊厳死を認めるとしている。

安楽死・尊厳死

- ・ 安楽死 (euthanasia)
 - ・ 筋弛緩剤などの薬物注射によって生命を絶つこと。
 - ・ 動物に対する安楽死：日本では炭酸ガスによる殺処分が一般的。
- ・ 尊厳死 (death with dignity)
 - ・ 回復する見込みのない病者が無益な延命措置をほどこすことをやめて、自然な死を迎えること。→リビング・ウィル (living will)
 - ・ 日本尊厳死協会

キリスト教の対応

- ・ カトリック：安楽死に反対
 - ・ 人の命を終わらせるのは神のみ。
- ・ プロテスタント（特にリベラル派）：安楽死に賛成
 - ・ 患者の自己決定権を重視。